



幼児でも安心して渡れる
横断道路に

幼女の交通事故

第二小学校四の三 高塚 俊

[illegible]

「まああん、主事の所
でとかの女のたむひひ
れたわ」というとひん
げになつた。」と聞かぬ
た。ほくは「おまえね
足の下が、かわたでく
ついいいたわ」といっ
た。

「運転さんもおスリッド
せいいたをまもつらんの
いいたい。おまわりさん
力では、事故をふける
もので、運転さんのお
や、歩行者のきよ力が
なくては、できないと思
う。」

この事故は、前にいた
にいつと目の目でわかる

交通事故をなくそう

金津小学校四の二 植木和宏

の新潟県では、毎日火をてあためてくれました。そして病へこびました。そして人は阿きの骨を折ってしまった。工はずんばこは、豆腐

又僕らは、ぼろ／＼とさきりで五十米／＼と全然見えないので、そなたは、自転車から降りて歩いて下さい。早くは道うされ、見通す／＼と道

に考えています。
今年の九月この事故
は、ぼんたの事故
では、西園瀬とい
う橋がありました。こ
こでも人がおとす
つです。

坂がいていたが、速く
いからは、はっきり見えな
かったのもありやが、だ
いたいスピードを出し上
ってきたブレーキをかけ
てもに合わないかつたそ
うです。

路になるという思いと想
え。道路の悪いなあと思
ふ。交通事故の大きな原因
だ思います。

ぼんたのぶるは僧
侶木庵を横断すれば、
行けぬので借道校を
しています。ふきで

[illegible]

交通違反

結小学校四年 晒名かずみ

[illegible]

よっぱらいうんてん

おさげをのんだり、いねわりうんてんは、じこになるが、ひとりひとりがちやうさいすればぴつとらった。

ずうっと前、わたしとおかあさんが、にいつの町にいっていたときです。トラタックについてい

した。前
大は、いま
した。後ろ
ななしてき
ななしてき
ふるふる

山田裕子
満日小学校三年

た男の人がおきかたをのんでいて、まっかなかおをしておりました。

そこへ、じてんしゃののっている人がはしってきまして。

トラックが、もうすこ

して、じこにはならないでしょう。

バイクのおじさん
結小學校三の三
栗原道平

「バイクのおじさん、町の交通がはげしいところだけ免を飛ばしていろいろの細い道や、通りの少ないところでも、ゆるいスピードで走ってくをよくまわって下さい。」

「まづが平和のとき、お

「一生」と
の一秒ゆ
いのちを
あきらま

じてんしやのつてい
るその人は、うしろへつ
けてあった。かんのあま
らをこぼしてしまいまし
た。

そこへ、けいさつの人
が二人きました。けいさ
つが、きました。二人は、
結核学校へおりましたと

「そろそろしうな、きければ、さうです。」

「それだつと、その人は、じてんぎにのつていた人、あたまをさげました。 あがらば、ゆううつかりよを見をしたとき『どけるひまもないがびくくのひたないパイがほくつしました』」

ぼくは、その人に、たいへんしんぱいをかけました。

そのままだになっていまし
した。じてんしゃのタイ
ヤがはなれて、かわいそ
うに、その人はあるいて
歩もう。

よっぱらいうんてん

満日小学校三年 山田裕子

ずうと前、わたしとあかさんが、にいつのにいったときのことです。トラックのついでに男の人がおさけをのんで、まっかおおをておりました。

おさけをのんだり、いねわりうんてんは、じこになるので、ひとりひとりがちゅういすればけっこうして、じこにはならないでしょう。

「バイクのおじさん、町の交通はげざしいところだけ気を付けて、いなかの細い道や、人通りが少ないところには、もうすこしゆっくりしてください。」

おれたてでたすかりました。もしかろばなかつたら、その人は、しんじてんしやにのつていそ人は、うしろへつてあつた。かんのあぶ

いところでも、ゆだんしないで交通をくをよくまもってください。

ぼくが二年のとき、おかあさんと町へ、用じに行った時、お天気がよかつたので、お天気が出たので自動車をバイク、

「そこへ、けいさつの人二人きました。けいさつの人にはトラックのついた男の人に、いろいろことをきいていました。番号をまもって、おうだん歩道を通ってバスにのつてかえりました。結学校前でおぼろしくうつつかりを見えたととき「ドドー」という音が出て、どけるひまもなくバイクがのつた

ぼくは家の人に、たいへんしんはいをかけたました。ぼくがわき見をしたのも、よかったと思うけど、バウカのおじさんも子どもがいる細い道など

シ
グ
ナ
ル

第一小学校三年 坂爪富江子

わたしは学校へ行くときも帰るときも、しんこうのあるうへかどをとおるです。わしが前の方から、しんこうを見たとき、

「さあ、いまのうちにわたろう」

と思つて、おとこの手をだんぽうへつかせておるきやうに、ちやうど足音をうき見せしめ、

けれど、これはいだ。しんこうが、ななな、車や人でいっぺん、で、小いしたちが、いづれもこわくなく、うがわえたらねなき、

「はしるだめよ。か手をあげて、ちゃんどきい」

「はしるだめよ。か手をあげて、ちゃんどきい」

だすと、いつものように
きまってる赤い目が、
「ちよっとと赤い目だ。今は
前の車が通るときだ。今は
わたるとけが来るよ、
学校のはじまる時間はま
だ大じょうぶだ、きょう
また大じょうぶで、きょう
と普通です。
「さあ、しっかりとおち
いて、とおった、とお
ちたはだいじょうぶだ。
よつとのあいだだった
ど長くまった気がする

と、わたしたちをにらむように赤く光ります。わたしは、はっと、いきがとまりそうになり、

の、目をよく見ていなさ

と、わたしをのり、わたし

と、わたしの小さな差

ばれの色、どこま

つづく海の色とおんな

背い色が、しんぎつに

といくつに、大ぜいに

といっぱい車をせ

前に出たかた足も、おそろおそろうしろえ、ひっこんでしまいます。

「いつも、ここにくと赤だわ」と、ひとりごとがでています。

赤い目、きいろい目背に見、いつもわたしを見とくれる三つ目ありがとう。



手を上げて通れば絶対安全

新潟大学の誘致運動を展開

新津市が交通の便、環境からしても、新潟大学を設置する文教の最適地と考えられますので、市議会でも新潟大学の誘致運動を展開しております。市民のみなさんのご協力をお願いします。

並ひに